京都大学新聞

学生団体
京都大学新聞社
京都市左京区吉田
京都大学構内
(761) 2054 直通
(751) 2111 (内線2573)
振替・京都3909
(1部30円 1年間1,000円)

クラスコンパの御相談承ります
11月中一割引(会費のみ)
割烹 きよす
スキヤキ・ナベ料理一切
寺町通今出川上ル
TEL (231) 5122 (231) 5177 (231) 5657 (231) 8776

■紙面紹介■

12月3日号
2面 ▼石川君のアピール
11月26日号
1面 ▼闘争報告・竹左分処分闘争 教官罷免・同学会
2面 ▼報告 労災・職業病・公害を闘う活動家懇談会

11・27 狭山差別裁判糾弾闘争

午後 弁護団、力強い弁論 石川無実はより鮮明に

官側をうすめつくした二モンに対する四人の証死者についての疑問を解明することを要求した。

また青木弁護人は、石川君の一審における『自白』強要と部落差別の関連を明らかにし、部落問題の解明抜きにはこの事件の真相は明らかにならないことを訴えた。

さらに、三上弁護人は別件逮捕と言違法の違法性を主張し、樋本弁護人は殺害方法をめぐり、事実「解剖所見など」と『自白』との食い違いを示した。そして、大村弁護人は、解剖所見によれば、死体の逆づつの痕跡（死斑）は認められず、『自白』と二致しないことを主張した。また、富沢弁護人は『時計、万年筆、かばん』は薄板さんの物とし、「われわれは、このことを補みをもって受けとめ、怒り新たにして、一日も早く彼をとり戻さねばならない」と訴えた。

以上が本日の公判の内容である。傍聴席は弁護人の熱弁は井波裁判官の時よりは明るくなっている。しかし、閉じは開始されたばかりであり、すべての人々の注目を要請する」

続いて論告に立った山上弁護人は、寺尾が「裁判が長期にわたることが予想される」として、三名の裁判官に加えて一名の補充裁判官を置いて訴訟の合議体としたことと、石川君が公判冒頭の人定尋問の際に「私の感じている裁判長の顔が見えない。それは『自白』が導入されてしまったことと、十年を越る拘禁生活による肉体的破壊と損失を訴えたことを報告し、「われわれは、このことを怒り新たにして、一日も早く彼をとり戻さねばならない」と訴えた。

その後、弁護団の自己紹介と決意表明が行われ、青木、松本、藤田、中山、石丸の五名の弁護人が次々と自らの決意を述べた。

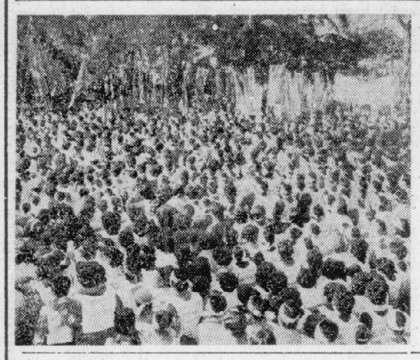
そして、当日の会場カンパの内の一部が、松井副委員長によって石川君の闘争に手渡され、その後義雄次のような集会宣言が、川本中央委員によって読み上げられた。

「われわれは全国各地からこの日比谷公園に結集し、一万人をはるかに超える集会を成功させた。

石川君を釈放させる決意固い。ここにはわれわれのみならず労働者人民のその決意の固いことを示す場もある。本日の公判の通じテッチ上げ『自白』と答顧の事実の食い違いは、ますます一層明らかになり、石川君の無実はますますはっきりした。寺尾裁判長はすべての鑑定証人を採用し、検察は誠実に持っている全証拠を提示しなければならない。また石川君は、十余年の長きにわたる不当な拘禁により健康を害されている。裁判所は石川君の保釈を直ちに認めなければならない。また裁判所は機動隊を動員しての厳重体制をすみやかに解除し傍聴人のメモ、録音などを認めよ。われわれは配置殺による部落差別を利用しての石川君への犯人へのデッチ上げを許してはならない。二百万人署名の提出を始めとするあらゆる闘いをもって、完全勝利を目指し奮闘することを誓う。」

「ここに宣言する」

以上の趣旨の宣言を大会の担手で朗読し、更に十二月六日、八日の公判への結集を決意し、この再開第一回公判闘争が、圧倒的な勝利のもと力強い大衆闘争として闘い抜かれたことを確認して、この日の闘争は終えられた。



写真説明

□右上・右下／荊冠旗の林立する日比谷音を立錐の余地なく埋め尽くした二万余名の部落大衆、労働者、学生、なお数千名が野音の外にあふれ出た□左上／官庁街を埋めつくす大デモンストレーション□左上／早朝、日比谷公園に結集した大部隊

日比谷公園に1万5千人
徹底勝利への巨歩踏みだす

午前 長蛇の列高裁に迫る 解放同盟先頭に闘い抜く

十一月二十七日、狭山差別裁判再開第一回公判糾弾闘争が、法廷における石川一雄君と弁護団の闘い、そして二万五千人の部落解放同盟に結集する部落大衆、戦闘的労働者、学生、市民の集会とデモンストレーションをもっての法廷内外を貫く闘いとして闘い抜かれた。

昨年十一月、部落解放同盟中軸とし、労組の機関決定をもって結集した戦闘的労働者、全学共・学生大会決議をもっての学生、高校生の二大共同闘争によって非波前裁判長の早期審理死刑判決策動を打ち破った後、一年間の「空白」を経てこの日の再開公判闘争は始められたが、二百万人署名の提出、各地での狭山青年決闘の結成、一連の差別裁判糾弾闘争、差別弾圧裁判糾弾闘争、大阪府田教育差別裁判糾弾闘争、徳島小松弾圧裁判糾弾闘争――積み重ねの、等の一切の成果をもっての狭山差別裁判糾弾闘争への結集をかちぬいたものとして再開第一回公判闘争は圧倒的な高揚をもって法廷内外を貫く、そして一大街頭デモンストレーションとして最後まで戦闘的に闘われたのである。

決起集会が開かれた日比谷公園には、早朝から部落解放同盟各府県連、労働者、学生の部隊が結旗を先頭に続々と結集し、午前九時半から集会が開始された。

まず解放同盟松井副委員長からこの日の公判闘争へ向けて提起がなされ、石川一雄君の母親の連帯のあいさつがなされ満場の力強い拍手を受けた。

続いて弁護団を代表して佐々木静二氏、傍聴団長として米田中央執行委員長が、法廷外の大衆闘争を青春に力をつくして闘うという決意表明をなし、結集した会員によって「狭山差別裁判糾弾闘争」打ちこんでいこうこの大合唱と傍聴団が歓迎された。

さらに、法廷に登場せんとする石川君にシュプレヒコールで連帯・激励を送ってから公園での決起集会を終え、会場を日比谷野外音楽堂へ移し、「狭山闘争勝利一万人集会」が、午前十一時から開かれた。

日比谷野音には解放同盟各府県連の荊冠旗が林立し、一万人を大きく上回る解放同盟に結集する部落大衆、労働者・学生の部隊で超満員になり、全体の約三分の一が場外で集会報告を聞くという形で集会に参加するという、圧倒的な盛り上りの中で、集会は開催された。

まず解放同盟の開会のあいさつの後、議長団に小森（同盟中執）、八木（総評）和田（社会党）の三氏が選出され集会が進められた。

最初に石川青年のアピール（2面参照）が熱烈な連帯挨拶代表によって朗読され、この獄中一法廷における石川君の熱烈な闘いの決意表明に対して、満場の拍手を受けた。

続いて来ひんのあいさつとして、東京都知事候補、社会党前副委員長赤松氏、大阪府知事メッセージ、総評青年部部長目氏、東西両本願寺代表、蒔田参議員、八木衆議院議員、学者・文化人として大阪市大教授、そして大阪市大教授、そして市大学長のアピールが、それぞれなされた。

続いて基調報告の問題提起中央執行委員長の熱烈な闘いの決意表明がなされた。

「日共の大衆組織化によって大衆組織が府民共闘から脱退したが、これに対決し三百名の大衆組織が府民共闘から脱退した。」という趣旨の提起をした。

続いて各団体の決意表明がなされた。

まず同盟第八支府民共闘から、「日共の大衆組織化によって大衆組織が府民共闘から脱退したが、ここに結集した。日共の敵対的に対決し、部落解放を、支援とはなく労働者階級自らの闘いとして闘う」という旨の決意が表明され、続いて婦人民主クラブの代表から発言がなされた。

さらに、解放同盟青年代表として大阪府連青年部から「二百万人署名」、「狭山の無い国」を武器に、今なお石川青年が獄にとじこめられている現実を糾弾しかみしめ全力をあげて石川君をとりもどす闘いを推し進めよう」という旨のアピールがなされた。

続いて解放同盟婦人代表として埼玉県連婦人部から「昨年は七回部落解放婦人集会をかちとり公判へ大衆的に結集して闘ってきました。その後今まで生活の中に闘いの場を拡げ、あらゆる闘う婦人団体に決起を訴えてきました。石川さんの歩んだ道は私たち婦人の歩んだ道です。石川さんへの判決は私たち二百万部落民への判決です。獄中の石川さんを私たちの闘の戦列へとりもどすためさらに闘いましょう」という訴えがなされた。

次に、全国部落解放・支援共闘、全部神奈川狭山差別裁判糾弾共闘会議から決意表明がなされた。

全部神奈川糾弾共闘は発言の中で、一年間の公判の「空白」を通じた高裁・司法権力による共同戦線の解体攻撃に対決し、石川青年への東裁当局の獄中強圧を粉砕し、石川青年の小屈の獄中闘争との連帯を力をこめていくべく数度に渡り東拘置所糾弾闘争を闘ってきたことが報告され、さらに、「今年八月に長期にわたる拘留のために石川青年が「四肢マヒ」により一時おれたこと、寺尾裁判長による石川君の獄中への虐待がなされていることを、これまでの闘いの弱さとして痛苦とし更にも、狭山差別裁判糾弾闘争を全人民的決起で闘い抜くために、部落大衆、労働者学生人民の一大共同戦線の形成を、学園における全学共大衆的決起を通じ闘っていく」決意表明がなされた。

また、「八海事件」の元「被告」同藤さんが特別あいさつを行った。

二四歳の時、「同科者」であるということで不当に疑惑を受けて官憲にデッチ上げ逮捕され四三歳まで不当に獄中にとじこめられた同藤さんは、獄中で自分無実であることを訴え、死刑判決攻撃に対決し闘ってきた体験から、「私には石川君の精神的肉体的苦しみを理解できる。私は十八年も獄中生活を強いた国家権力への怒り憤りを一生あすれない。一刻も早く我々の手で石川君の即時釈放をかちとらねばならない。私も最後まで闘う決意である」という旨の連帯あいさつ・決意表明をなし、満場の拍手を受けた。

続いて解放同盟中央本部から上杉書記長が報告し、「本日の集会は二万五千人を上回る結集でかちとられている。闘結して粘り強く闘うならば必ず勝利する。広範な労働者、学生と共闘し国民的闘いとして積み重ねた成果としてこの法廷闘争は展開されている。日共のあらゆる分裂をはねのけ、部落完全解放をかちとるこの本集会で確認しよう。地域での討論会、学習会を青年、婦人、学生で更に組織し、権力のカイライ寺尾が少しでも反動化を示すなら、この二万人集会を上回る五万人、十万人の集会をかちとって闘おう」という提起がなされた。

次に、佐々木静子弁護団長から中央中央公判闘争の至上の報告がなされ、結集した全国の同盟各都府県連、労働者学生のデモンストレーションに移った。

この日の公判闘争を始めとしかとられた街頭デモンストレーションは、日比谷野音から東京駅を経て浅草国際通を先頭に狭山部府連、三重県連……大阪府連と各都府県連の部隊、そして三重の後に各学園、学生部隊、学生部隊、そして、学生部隊が続き、荊冠旗・赤旗を先頭に各部隊は交通ルートをジグザグにとりつくす長蛇のデモを行って高揚を始めとし、官公庁街を、石川青年をとりもどし部落解放の完全解放へ向けた力強い示威を炸裂した。

この中で、終結集闘争に迫るべくとられた街頭デモンストレーションは、日比谷野音から東京駅を経て浅草国際通を先頭に狭山部府連、三重県連……大阪府連と各都府県連の部隊、そして三重の後に各学園、学生部隊、学生部隊、そして、学生部隊が続き、荊冠旗・赤旗を先頭に各部隊は交通ルートをジグザグにとりつくす長蛇のデモを行って高揚を始めとし、官公庁街を、石川青年をとりもどし部落解放の完全解放へ向けた力強い示威を炸裂した。

この中で、終結集闘争に迫るべくとられた街頭デモンストレーションは、日比谷野音から東京駅を経て浅草国際通を先頭に狭山部府連、三重県連……大阪府連と各都府県連の部隊、そして三重の後に各学園、学生部隊、学生部隊、そして、学生部隊が続き、荊冠旗・赤旗を先頭に各部隊は交通ルートをジグザグにとりつくす長蛇のデモを行って高揚を始めとし、官公庁街を、石川青年をとりもどし部落解放の完全解放へ向けた力強い示威を炸裂した。

■狭山差別裁判公判予定■

十二月　六日　再開第二回公判
　　七日　現地調査
　　八日　再開第三回公判
二月　七日　再開第四回公判
二月十四日　再開第五回公判

理路「当」然の京都書院が
売れない本を揃えてイシズミビル地階に
新しい店を開店しました
京都書院
イシズミ店
京都市中京区河原町通四条上ル東側
イシズミビル地階　TEL (075) 223－0128

第26回学生広告論文電通賞募集
・締め切り－昭和49年1月25日・問い合わせ先－株式会社電通総務局学生広告論文電通賞係〒104東京都中央区築地1の11・Tel東京(544)-5131
●第1部「住民意識の台頭と広告の役割」(大学生個人とし、大学院学生を除く)
●第2部「自由課題」(大学生グループ5名～20名大学院学生を除く)
●第3部「新しい時代に対応する広告」(高校生個人)
●第4部「生活設計における広告の役割」(高校生グループ5名～20名)
文部大臣賞　賞状および記念副賞を各部の1位に贈る
電通賞・1部＝1位から3位まで賞状・副賞・奨学金20万円15万円10万円、佳作＝賞状・奨学金5万円・2部＝1位から3位まで賞状・副賞・研究費30万円20万円10万円、佳作＝賞状・研究費5万円・3部＝1位から3位まで賞状・副賞・奨学金10万円7万円5万円、佳作＝賞状・奨学金3万円・4部＝1位から3位まで賞状・賞牌・副賞・奨学金30万円20万円10万円、佳作＝賞状・副賞・奨学金5万円
主催 株式会社電通　後援 文部省

京都大学新聞　定期購読募集！
購読料　■1年　1000円　■2年　1800円　■4年　3200円　(郵送料を含む)
〒606　京都市左京区吉田本町
振替　京都　3909

羊の皮を生かしたシックなボディの18金ペン　プラチナ・シープ　¥5,000
万年筆の プラチナ

経済理 学部自治会選に 闘争委が勝利す

十一月二十九日、昨年の全学学生大会において、72年後期同学会中執（民青系）を吹飛ばして新しく戦闘的同学会再建一周年集会が開かれた。

この集会では、この一年間の京大自治会運動の発展の節目として、73年後期同学会代議員選挙における大衆的な意志一致、さらに、時間じくして進められている各学部自治会選挙の勝利を期した。

この一年間、同学会は竹本処分粉砕闘争を軸に、部落・入寮、金ケ崎寮、各課題を闘いぬき、全国的な崩壊状況の中で戦闘的な自治会運動確立の地歩を固めてきた。これに対し民青系は、いまだに72年後期教養部自治会（C自）常任委（72年後期同学会中執）（両者とも、昨年11・10代議員大会11・29全学学生大会でひ免）を僭称しているが大衆動員を一切放棄したまま、完全に破産している。そして、C自、同学会への方針を全くなげうち、地域住民への悪質な「反動学生キャンペーン」への積極的加担のみに自らを変質している。

なお、十一月三十日から開かれたアジア学生会議（タイ合国学生センター呼びかけ）にオブザーバー参加するため、バンコクに向った同学会代表団一名が青年・文部省から国際学生センターへの送金が拒否されたことに対し、抗議の意思表示として、同学会代表団の参加を取りやめた。

狭山にむけ決起す

京都 三単産軸に五百名

11月22日、再開される狭山差別裁判糾弾闘争に向けて、京都における組織労働者を中心とした総決起集会が三条河原で開かれた。

この集会は昨年以来の京水労・全逓・全電通青婦部による三単産共闘の積み重ねの上に、京都における戦闘的な労組の青年部共闘に発展した集会として、始めての狭山闘争を闘う集会として、踏み出したものであり、部落解放同盟（京都府連）の正式参加、京大（狭山実行委青年）、仏大、立命大などの学生の結集を見、「両翼的な集会となった。

約五百名の参加者は掲の中、まず京都府連から次のような発言があった。「われわれ京都府連は、狭山闘争を、六十部落、三百万部落民の命をかけた闘いとして闘いぬく。この集会への参加は、実行委からの中央本部への要請により、中央本部の指令のもとに行われたものである。また、京都における組織問題は、部落大衆の手による石糞峠型主義者との闘いとして解決しようとしている。」

参加者は、この熱烈なアピールはまでに決定されて居り、あらゆる国家権力の不条理に立向ってゆく以外にこの返しが出来ないと思います。が然しながら、闘争に厳付けて下さった皆さんは私の狭山闘争をはじめ、あらゆる政治闘争と結合させて部落完全解放の展望揺の為日夜懸命な努力を続けておられる事を思う時、国家権力の罠に陥り、曾て十一年に及ぶ獄中生活によって自由を奪われているとは申せ、曾て狭山共に解放闘争に加わる事が出来ない無念、かつ皆さん方に申し訳ない気持ち一杯であります。でも活動家の皆さん、私は皆さんが立ち上がり出発されたのだと信じ、心は何時も皆さん方と二人三脚で闘っている。又心をこめて厳しい私の手紙は大空高く舞い「……日帝打倒・部落解放・差別撤廃……」と私の手紙は山を越え、海を渡り全世界に訴えを広げ、身体は獄中にあろうとも皆さん方の日常活動に少しでも役に立つべく、差別撤廃……」と私の手紙は山を越え、海を渡り全世界に訴えを広げ、身体は獄中にあろうとも皆さん方の日常活動に少しでも役に立つべく、差別撤廃……」

11・27狭山差別裁判再開第一回公判闘争に、獄中の石川一雄君から長文のアピールが寄せられた。十年祭にわたる獄中生活の中で、高裁・東京拘の弾圧によって固体の破壊を狙われながらも、石川君は、狭山差別裁判糾弾闘争の徹底勝利へ向けた力強い決意を表明し、11・27集会の一万五千人の参加者に深い感銘を与えたのである。

以下は、当日解放同盟中央本部が配布したアピールの全文であり、タイトル・波打ちなどの責任は本紙編集部にあります。（編集部）

狭山差別裁判糾弾闘争の全人民的な大爆発を

石川一雄君の獄中からの訴え

11・27狭山差別裁判再開第一回公判闘争に、獄中の石川一雄君から長文のアピールが寄せられた。十年祭にわたる獄中生活の中で、高裁・東京拘の弾圧によって固体の破壊を狙われながらも、石川君は、狭山差別裁判糾弾闘争の徹底勝利へ向けた力強い決意を表明し、11・27集会の一万五千人の参加者に深い感銘を与えたのである。

以下は、当日解放同盟中央本部が配布したアピールの全文であり、タイトル・波打ちなどの責任は本紙編集部にあります。（編集部）

狭　山差別裁判糾弾闘争・日帝寺尾体制打倒を目指して、ご日頃から絶えず激励の手紙を送って下さった支援者方に対して、一年間の中断を経て再開された公判は決定的に重大であり、今日迄、好き勝手な事を振舞って来た敵権力に対し、飽くなき怒念をもって大反撃を開始して頂くわけであります。狭山事件の歴史的勝利へ導く為には国家権力との一戦を交えずしてヒリオドをうつ事が出来ないまで発展してしまった狭山事件はまさに関ケ原の合戦的な戦闘態勢は不可欠となり、狭山事件の勝利は即敵権力への打撃と共に部落解放への道が切開かれる事であり、この歴史的記念すべき勝利の一ページを飾る為に相応しい大闘争と化すように公判闘争を盛り上げて頂きたいのであります。ことに今年の三回延は、今迄の弾圧側の実質的支援者方に対しても、この三回延は、今迄の弾圧側の実質的支援者方に対しても、この三回延は、今迄の弾圧側の実質的支援者方に対しても、この